

か
お
ろ
と
母
ち
ゃ
ん

お
た
よ
り
帖

3
ね
ん
5
く
み

こ
ば
か
お
る

まえがき

このおたより帖は、もう半世紀以上も前に綴られたもので、亡き母が、だめ坊主だった私のために、なんとか文章をうまく書けるようになってほしい、生活をきちんとできるようになってほしい、人に迷惑かけずに元気に育ってほしいと願って始めたもので、両親が共働きで帰宅が遅い家庭にあって、家族のコミュニケーションを必死にまもろうとしてあみだした方法のひとつだったようである。

かなり昔のことなので、読み返してみても私自身でさえ、記憶にないようなところもあり、母の生前であれば、内容の確認もやれたのだろうが、残念ながらその母の遺品の中からでてきたものなので、私自身もその存在を忘れてしまっていたというのが本当のところだ。

元々は、B5版のノートに綴られており、一九五九年五月二十一日から始まって二月三十日に終わっている。ところどころ日付がとんでおり、何事にもきちんとしていないとすまなかった母にしては珍しいのだが、破り取られたという形跡もなかったので、家族が揃っている時には、記録の必要性はなかっただけなのだと思う。

残念ながら、その後は、やめてしまったのか、それとも別の方法でつづいていたのか覚えていないし、記録も残っていない。惜しい事をしたと思っている。

表現も稚拙でほとんどがひらがな、しかも、母も、子どもへの伝達のためひらがなで書き綴っており読みづらい。しかし、私としては、できれば原文のまま、こどもらしい字の汚さ、それをたしなめる母の綺麗な字も復元出来たらと思ったのだが、そんなことより、母と私の思い出としてなんとか残しておきたいと思ったのである。

平成二十五年五月十二日 母の日に

まえがき	2
(はじめに)	9
五月二十一日 (母)	10
五月二十八日 (↓二十一日のまちがいらしい)	11
五月二十三日	15
六月一日	16
六月五日	18
六月十日	21
六月十一日	23
六月十二日 よる	25
六月十五日 よる	27
六月二十二日	29
六月二十三日	31
六月二十四日	33
七月十六日	35
七月二十一日 火よう日	39
十月二日	44

十月五日		47
十月六日		49
十月七日		52
十月九日	(↓十月八日のまちがいらしい)	55
十月九日		57
十月十日		59
十月十一日		60
十月十二日		62
十月十三日		64
十月十四日		66
十月十五日		69
十月十九日		71
十月二十一日		72
十月二十二日		74
十月二十三日		76
十月二十六日		78
十月二十九日		82

十一月四日	84
十一月五日 はれ	86
十一月六日	88
十一月七日	91
十一月八日	93
十一月九日	95
十一月十六日	97
十一月十八日	99
十一月二十日 金よう日	101
十一月二十一日	103
十一月二十四日	105
十一月二十五日	107
十一月二十六日	109
十一月二十八日	111
十一月三十日	112
十二月一日	114
十二月二日	116

十二月二十九日	153
十二月二十八日	151
十二月二十六日	148
十二月二十三日	146
十二月二十二日	144
十二月二十一日	142
十二月十九日	139
十二月十七日	137
十二月十五日	135
十二月十五日	133
十二月十二日	131
十二月十一日	129
十二月十日	127
十二月九日	125
十二月八日	122
十二月七日	120
十二月三日	118

十二月三十日

【思い出の写真】

【感想・評価編】

① 徳島市 持山保信氏

② 那覇市 金城珍諒先生

169163162156155

(はじめに)

毎日、母ちゃんの部屋へやの机の上においてね。

大好きな薫ちゃん手と手に心と心にちかいをかけてまもうよ。

かおるちゃん、三年生ですね。何時までも一、二年生の時のように、遊びだけではない事はよく知っていますでしょう。父ちゃんも母ちゃんも、かおるを良い人にしたいのので力を合わせて働いていますから、薫も自分の力をもっと出して、まじめにやってみよう。

良いお話も、悪いお話もこのおたより帖に書いて、母ちゃんもかおるも毎日一つの事でも、はんせいして力を合わせて良い人になりましょう。

約束やくそくしましょう。

姉ちゃんやおばあちゃん、久子姉さんのいう事をすなおにきいて夜になるまで外にいないよう必ず実行じっこうしましょう。

五月二十一日 (母)

きょうから、このたよりが母ちゃんの「ことば」 pensando、よく見て、よく考えて下さい。

学校から帰ったウガイを忘れないでね。ごはんをたべてから、のみの、おやつをたべること。

おべんきようは宿だいのほか算数は、かならず やりましょう。

こくごは、本よみとかんじを書きます。

できたら、おへんじを正直に書いてね。ではおねがいします。

暗くなったら直ぐ家に帰り手も足も顔も洗ってウガイをしてから、なんでもたべるのよ。

母ちゃんより

薫ちゃんへ

姉ちゃんにならってでもおへんじを書いてください

五月二十八日（↓二十一日のまちがいらしい）

きょうは 学校で おべんとうの時間に ぼくが 女に かおにごはんつぶがついていたので 「ごはんつぶがついてるよ。」というところ 先生が かおるさん やさしいわねと ほめられた。

そして 五時はんごろ おかあさんがきたので 「につきちようよんだ。」とききました。

ぼくは 「まだだよ」といった。

そしたら ぼくは ぞうきんがけや 水まきをして ほめられた。

おかあさんが いって まもなく おかあさんに あいたいと 女の人が出ていたので ひさ子ねえさんをよんだ。ひさ子ねえさんが おきやくさんと はなしをしました。それから ひさ子ねえさんは おきやくさんから 10\$あぶかりました。

（おわり）

かあちゃん おやすみなさい。

五月二十二日　（母）

きのうは、ほんとうにおりこうさんでした。

母ちゃんは、とつてもうれしかった。

何でも実行できるかおるちゃん、いつでもきょうのようにおねがいします。

五月二十一日ですから、きのうの日づけをなおしてね。きょうはたぶんおそくな
ると思います。でも、毎日わすれないではんせいしましょう。

グローブのべんしやう代一ドル二十セントに、またしろいはねの十セントで一ドル
三十セントはおきます。せきにんというだいじなことを、これからよく気をつけてく
ださい。お金をむだにするのはいけませんよ。

又、きょうも、一日の事をかいておいてね。エンピツがふといから、じがきたなく
みえます。もつとそろえるれんしゅうをしましょう。

母ちゃんの今ばんのたのしみは二人のおへんじです。

ありがとう。

母ちゃん

かおるちゃんへ

1. 30 仙

五月二十二日夜
(母)

母ちゃんはとてもさびしかった。

それは、おたより帖に何もかいてないからです。ねる前に、かならず、よみたいので、あけてみたらなにもない。せつかくやくそくしてあるし、母ちゃんはたのしみにしているのです。

もう一度、^{いちど}はんせいしてちようだい。

きようは、^{いろいろ}色々の事があつたのにね。

さんぱつも、つめきりも、母ちゃんと一しよにおふろにはいった、たのしいこともね。なみの上まできて、およぎたかつたでしうけど母ちゃんのいう事を^{まも}守つて、がまんしてくれたのも、たいへんよかつたのです。

うれしい事、さびしい事、ほしい事、なんでも、かくと、^{じぶん}自分の^{こころ}心がきれいになるでしょう。

きようの母ちゃんのさびしかったきもちをかんがえて、わすれないでかいてね。
おねがいよ。

それからじかんをよくおもいだして、あそびにでたら、かならずおばあちゃんに、あいさつするように。三じかんも、そとにいては、バカになります。

きのうわかったと、おもうことはきょうからなおしましうね。

かおるちゃんへ

さびしかったとおもう

母ちゃんより

五月二十三日

きょうは 水まきや ぞうきんがげを してから ぼくは、おかあさんの所へ いて、「ぼく 三年の学しゅうじてんかったので 月ようびにお金 八十三¢ ちょうだい。」と おかあさんにいうと「どんなもの。」と おかあさんが いった。ぼくは 「ちよつと まつてね」と おかあさんにいって 学しゅうじてんをとつてきた。

おとうさんに 見せると おとうさんが かわいそうねと おかあさんにいった。おかあさんは、「ええ。」といって 「じゃあ お金は 月ようびに もたすから、一\$は ねえちゃんと二人で ざつしを かって おいで」といった。ぼくは よろこんで かいに いった。でも まだ 出て いなかった。それで おうちへかえると おかあさんが 「じゃあまんがでも かりて おいで」といったので まんがを ねえさんが二さつ ぼくも二さつ かりてきた。そしたら おかあさんが ぼくは、「そばとつてたべなさい」といった。

それから おとうさんと おかあさんは えいがを見にいった ぼくは ところを歩いて ねた。

おかあさん おやすみなさい。

六月一日

きょう 学校で 先生が 四時間めに 「あしたは ずがですから えのぐの あ
る人は えのぐ えのぐの ない人は クレパスを もつて きなさい」と、せんせ
いが、いいました。

ぼくは 家へ かえって ごはんを たべて ほうそうがかりへ いきました。

金じょう 先生から えんぴつや 子どもほうそうげきだんの はなしを ききま
した。

それから かえりに かずえねえさんが バドミントンを やっていたので ぼく
も やりました。

それから 家へかえると おかあさんが 来て いました。おかあさんは おこつ
ていました。

(母) それがわかったとき、どう思おもいましたか。

六月一日　よる（母）

べんきように、しんけんにならないから、じもへたになり、ぶんもだめになりそうです。

母ちゃんは二人の子供こどもがともだいじなのです。

やくそくをまもるために、母ちゃんもいろ／＼とがまんしています。

ちかごろのかおるちゃんのおこないや、ことば、たいどに、ふと、かなしくなります。

こんやは、涙なみだがでてなきだしたくなりました。

母ちゃんはおしごとをやめる方ほうがいいのですか。

かおるが、もし、すなおにやくそくをまもらなかったり、あそびだけで自分のせきにんのべんきようができなかったりするなら、母ちゃんはおしごとにいかないでいえます。そしてせつやくします。

いろ／＼なやりたいこともこれからたくさんできるのです。

あそびたいでしょうけど、自分のすべきことをわすれないでね。

こんやのおたよりありがとう。

六月五日

きょう 学校から かえって ごはんを たべて ほうそうげきだんに いきました。きょうは だい三回 かぐやひめに ぼくもできました。ぼくは けらいになりました。

かえりに やきゅうしあいを よりみや中学と まわし中学が やっていたので みると まわし中学が ランニングホームランを うったとき 大あめが 降りました。ぼくも すこし ぬれました。

おかあさん おやすみなさい

(母)

よくかけたけど もっときれいに、かいてください。
じがわるくなってきたようです。

六月六日 (母)

かおるちゃんありがとう。

母ちゃんは寝る前によんで、とてもうれしかった。

ねえちゃんのがなくてざんねんでした。

でも、かおるちゃんが よくかいてあるのでがまんします。

かぐやひめのほうそうを、母ちゃんもききたいわ。

中学生のやきゅうは大へんおもしろかったことでしょう。

かおるも、まいにち、れんしゅうすれば中学生のころにはもうほんとうのせんしゅになるだろうね。

そのときには、母ちゃんがおうえんだんちようになります。

よくべんきょうしてよくあそび、そしてかあちゃんへのおたよりもかけたので、大へんたのしい日だったですね。

十セントはさんでおきます。

ちよきんばこに入れて、またがんばってね。くりすますやおたんじょう日までちよきんがたくさんたまるように、いつもおりこうさんでいてね。

おやつは、母ちゃんがビンにわけてあるだけで一日ぶんですから。

六月七日 (母)

かおる君、きのうのおたよりは、ぜんぜんみてないですね。

せつかく、母ちゃんが、ちよきんもいれてあるのに、そのままになっていました。学校をすませて、家にはいったら、まづ、けいかくをたてなさい。

おたよりをみないと、よいかんがえもうかびませんよ。

すぐ、そとにでることだけにならないようにね。

きようは、父ちゃんも母ちゃんもおしごとなのでさびしいことでしょう。

でも、おしごとなんですから、きようはみんな、おしごとすることにして、あなたのおしごと、とはおべんきようのことですから。いつもより、せいだしてやってちょうだいね。

ドリルとさんすうを(ニケタ)れんしゅうして、ふくしゅう、よしゅう、本^{ほん}よみをすませたら、あしたのじゅんぴをしてカバンと机^{つくえ}のせいとし、それからじゅうのじかにしてね。

たのみましたよ。

六月十日

きょう 朝 学校で はししぶつてが つぶれていたの で 家で べんきょうして から ほうそうげきだんに 行きました。

きょうは 中学生が まらそんや はばとびを していたので ろくおん中は な んども しっぱいして やつとおわりました。

そとにでると とても いいきもちでした。学校の かがみでみると あめが 水 のように みえました。

かずえねえさんが むかえに 来ていたので かえろうとすると 雨がふっていた ので しばらくしてから はしつてかえりました。

家で だんごや すもを たべました。

それから ねえさんと けんかをしました。

かあちゃん あした 子どもをまもるなんとかいう お金を一々もらいます。
ではかあちゃんおやすみなさい。

(母)

おたよりを、ずっとわすれていましたね。でも、ありがとう。ボールペンはよくかけますか。母ちゃんはやくそくをまもっているのですから、かおるもなるべくわすれないでおたよりかいてね。

あめで大へんだったわね。ぬれてかえらないでね。おようふくはぬれたときにはすぐかえるように。それから、「はししぶつて」というのは、たぶんほうげんでしよう。ハグキが、カノウしているというのが正しいとおもいます。

まいにちのほうそうぶも、ぜひ、がんばってちょうだい。

とつても／＼ねむいのでこれだけにします。

おべんきようは、かならず、キソクでやること。せんせいのおはなしはしづかにきいてかならずあたまのなかにいれること。母ちゃんにもがつこうでのおはなしをきかせてちょうだいね。とつてもたのしそうね、いまのクラスは。子どもをまもる会^{かい}へのキフ金はおいてあげます、五セントね。エンピツはかってもいいけどアイスクーキをかわないでね。

六月十一日

きょう 学校で こくごの かんじをかいした時 先生に とても ほめられました。

それから そうじのとき ぼくと けんわくんと 二人で きょうしつのかべや
くつばことか 入口に おいてある あしふきを あらったり したので ぼくたちは
とても ほめられました。

家に かえって しゅくだいを かいて あそびに 行こうとすると 雨が ふつ
ていたので 家で あそびました。

かずえねえさんが かえって くと けんかを しました。どうしてと いった
ら ぼくが ねえさんのところから エンピツを とったからです。

それから おかあさんが かえってきました。

かあちゃん あしたは とうちゃん おしごとに 行くでしょう。

とうちゃんは どうして しごと 休んだの おたよりちょうにかいてね。

六月十二日 はれ (母)

学校で良い事をして先生にほめられると、とってもいいきもちですね。母ちゃんも生とのころをおもいだして、うれしくなりました。

だけどせっかくのよい子が家にかえって、ねえさんとけんかするのは、いけないわね。もうすこしねえさんをだいいじにおもってちょうだい。

それから、きのうは、父ちゃん、あたまがいたくてやすんだそうです。休んでいるのは、母ちゃんもわかりませんでしたよ。父ちゃんはあまりいそがしくて、かおるとあそべないのがさびしいでしょう。がまんしましょうね。さいきんとってもいいそがしそうですから、せめて家ではしづかにやすませてあげるようにみんなで気をつけましょう。

では、いってらっしゃい。

つめたいものをたべすぎないように。

あせをよくふいてからきかえること。

六月十二日　よる

おかあさん　ぼくたちの　ぜい金は　なににですか。　一つかいて　ください
きょう　学校に　ハーモニカを　もって行って　ふいて　いると　先生が「よくふ
けるね。木場さん」といわれたので　ぼくは　とてもうれしかった。

学校が　おわって　家に　かえって　ようふくをきがえて　おにぎりを　たべた。
それから　とうちゃんのとこへ行くと　とうちゃんがでてきて　ほんとあめを
くださったので　よろこんで　かいだんをおりて　いった。

大どおりを　わたって　バスのりばで　しゅりバスに　のった。そして　おかあさ
んのとこへ行くと　おかあさんがいなかったの　まんがをよんでいた。おかあさ
んがきたので　さんぱつやに　いった。そして　おかあさんから　そばだいと　バス
ちんを　もらって　そばを　たべてから　かえりは　ぎんバスにのってかえった。

(母)

ぜいきんは、①きょういくぜい②しみんぜい③ふどうさんぜい④しよとくぜいきょうも、おりこうさんでした。

学校では、ハーモニカふいて、ほめられたのね。きのうはおそうじのことでほめられるし、よい事ばかりね。

さんぱつもして、本も父ちゃんに、いただき、うれしかったでしょう。よく、よんで、お話も時^{とき}どき、きかせてちょうだいね。

かおるくんは、たいへん、じがわるくなってきたようです。いそいでかくからでしょう。まちがったじもあるし、ことばにもまちがいが、おおいようです。なおされたところは、もういちどみて、こんどはきれいにいかいてください。そろえてかくように。それからということばをつかうところは、ぜんぜん、べつのおはなしにつかうのですから、よくじぶんのかくことをくちにだしていつてみてごらんなさい。ねえさんが、さいきんたいへんよくなってきたのに、かおるはまけそうですよ。けんかせずに、なかよく、ねえさんについていくようにしてね。ではありがとう。

六月十五日　よる

きょう　学校で　さんすうの　グラフを　きれいにかいたので　先生に　ほめられて　とても　いいきもちでした。

家に　かえって　ほうそうげきだんに　いきました。まだ　はじまっていなかったので　あそんでいた。はじまってから　すりものをもらった。こんどの　ほうそうは　よう子さんの虫ば　というだけで　やりました。

よう子さんに　りつ子

おかあさん　西平エツ子

おとうさん　わからない

けらい一　もとやすまり子

けらい二　トウル

けらい三　ぼく

それで　かえってから　べんきようして　あそびにいつて　かえってから　さんすうのべんきようをしながら　ごはんを　たべた。

では　おやすみなさい。（おわり）

六月十六日　（母）

おたよりありがとう。いつもねむくなつてからあわてるのね。もうすこし、じをきれいに書^かいてもらいたいと思^{おも}います。

ほうそうげきだん、おもしろそうね。おとうさんに、かおるがなつてみたいと思いませんか。それには、うんと、ゆうきがいるでしょう。げきのひとになるには、はづかしがらず、すっかりじぶんがその人になりきらなければいけないからね。ほかのことをかんがえないで、じぶんが、そのけらいになり、おとうさんのきもちにぴったりなつていなければ、そのことばもでないし、かんじもでませんからね。せんせいのおはなしをよくきいて、上手^{じょうず}にやつてごらんなさい。

よくおべんきようしますね。ほめられていいきもちです。母ちゃんもうれしい。だけど、かおるに一つおねがいがある。あまりねえちゃんをバカにしているようにみえます。なおしてください。

ねる前^{まへ}にかならず、ハをみがき、手もあしもきれいにあらうように、くすりのこともわすれないでね。もし、げきだんがないときは、波^{なみ}の上にあそびにきてもいいのです。きょうも、まもりましょう。

六月二十二日

きょう 学校で 早く 四じかん おわればよいのになあと おもいました。
天気はよかったけれど バスでそらを見ると まつくらでした。なみのうえで あめ
がふりました。それで いえにかえりながら プロペラとぼーるをかって いえでべ
んきょうしている と 先生が 来ました。先生とべんきょうして あびてからねむり
しました。

(母)

家で先生とべんきよう、するようになってからの、かんそうをかくようにしてね。
やっぱりよかったと思うことがたくさんあったでしょう。たけはら先生は良い方かたです
ね。

ぼくたちのかていきようし、というだけで、さくぶんがかけたら、もつといゝきも
ちでべんきようもできるでしょう。

ではありがとう。

六月二十三日

きょう ずがをかきに 山がた屋に けんわくんと いきました。ぼくは しっぱ
いしました。

おかあさんの かいしやで バスちゃんとジュウスだいを もらったので ジュウス
だいで 五¢の ひやしコーヒーを のみました。

そして 家で えを かいていると おかあさんが ききました。

おばあさんが 「きょう ひさ子ねえさんにお金五¢もらいよったよ。」といいま
した。ぼくは、おかあさんに 五¢おとしました といったら おかあさんは うそ
をいいなさい なにをかつたね といいました。ぼくは なにも かわなかつたよと
いいました。ぼくはほんとに おとしたので おきゆうとされてもよいと 思
いました。

(母)

かおるちゃん

ごめんなさいね。母ちゃんがうたがったのはわるいと思います。

でも、おかねをなくするのは、それだけ、うつかりしているわけね。

そのおかねがなくてこまるときのことをよくかんがえてね。

六月二十四日

きょうから 一つしゅう間ぐらいは さびしくなるなと ひるごはんをたべながら
とうちゃんは どこえ いくのかなと ききたかった。

とうちゃんが 来たので とうちゃん どこえ いくの 東京に いくのと きく
と ちがうよと いった かあちゃんが かえってきたら ぼくが かあちゃん と
うちゃん どこえ いくの と きくと かあちゃんも わからないよと かあちゃ
んは いったね。ぼくは たいがい やえ山か みやこに いくと 思った そして
かあちゃんと とうちゃんと ぼくと 三人に とまりこうに いった とうちゃ
んに 手を ふつたら とうちゃんも 手を ふつた。雨がふりそうだから 早くか
えりなさいと とうちゃんが いったので いえにかえると あめがザーとふつた。
はれたので かあちゃんは みよちゃんねえさんの けっこんしきに いった。ぼく
たちは 先生と べんきょうやった。 ぼくは もう 二けたもできた。

では かあちゃん おやすみなさい。

かあちゃん 六月二十二―三十日までかいてあるから よんでください。

六月二十五日　くもり　（母）

三日かんも、おへんじかなくてごめんなさい。いつもかいていないので、みるこ
とが、わすれられていたのね。でも、やつぱりかおるちゃんは、えらいわね。おもい
だして、かいただけでも母ちゃんはうれしく思います。

きのうは、とうちゃんがみやこへ行つてしまつて、母ちゃんも外^{がいしゅつ}出したし、さび
しかったでしょう。父ちゃんは一週間でかえる、よていだから、がまんしようね。

かおるは、いつもうみに行きたくてたまらないでしょうけど、母ちゃんと父ちゃん
が、一どつれて行つてあげるまで、まつていてね。かならずつれていきます。なつは
これからです。がつかりしないでね。

まいにちいうようだが、つくえや本のあとしまつがとてもわるいようです。よくか
たづけておいてください。

ではありがとう。またかいてちょうだい。

とまりこうで父ちゃんのつた船は、やしお丸です。

七月十六日

おかあさんは きょうも 用じに いっていなかった 先生は 一じはんに くる
やくそくをして こなかった。五時までまつてもこなかったの で あそんでいた。ね
えちゃんが べんきょうしていたの で ぼくは ハーモニカをふいてから べんきよ
うして ねむった。

では 母ちゃんもかいてね。

では おやすみなさい。

それから ねるまえに レモンスイを つくつて あるの で かあちゃんものんで
ね。

(母)

先生が来られなくてぎんねんだったわね。

母ちゃんも、はやくかえるつもりだったけれど、左馬(さま)のおばのようじで、ふてんまに行っておそくなったのよ、ごめんね。

とつてもさびしかったでしょう。

レモンスイのみました。おいしかったわ。れいぞうこのおかげで、ことしのなつは、ほんとにすずしくていいわね。

おたよりかいてくれてありがとう。

七月十九日　はれ　日曜日　（母）

きょうは、プールに行つてとてもたのしかったでしようね。

つかれたのか、かおるはすぐねむってしまった。

母ちゃんはあしたから、ぎんこうのおしごとへ行きます。ながいあいだやすんだので、おしごとはつもっています。

からだのぐあいが悪いのですから、よくいいつけをまもつて、母ちゃんをかなしませないで、おこられないようにして下さいね。

かていきょうしの先生はやさしい人ですけれど、あまりあまえてはいけません。よくおしえてもらつて、おとなしくしてね。これからは、またおたよりちようではなしができます。

じも、ぶんも、もつとくじようづになるようがんばりましょう。

カバンのせいとん、つくえの上のせいり、ボウシやクツなど、これからはよく氣をつけてちょうだいね。

なつやすみにはいったらプールや海に行くのがおっくなりますね。たのしみでしょう。ではおやすみ。

づがのもうしこみは、かいてあります。学校にだしてちょうだい。
一日に一回は、かならず、本やつくえのせいとんを^{わす}忘れない事よ。

七月二十一日 火曜日

きょうは ピーティーエーです。

おかあさんが 来ると おっしゃったので あんしんして 学校へ 行きました。
きょう かいだ ずがは 花びんの花でした ぼくは 少し 小さかったが 先生が
よくかけましたと ほめてくれました。ぼくは とても うれしかった。先生が
かおるさんとけんわさんと、ともひろさんと、こうてつさんは のこつて ずがをは
つてちようだいと いったので ずがを はりました。あと一まいというところへ
もう おかあさんや おとうさんが 四人ぐらい来ていました。ぼくは 家に か
えると のぼるにいさんと まさみくんと 三人で スケートをのりに がっこうへ
いきました こうちようせんせいと きょうは おかあさんがたがくるので ここで
ガーガーしてはうるさいから あさつてのつてねと こうちよう先生が おっしゃ
ったので ぼくたちは のぼるにいさんと ただまさにいさんと みつたかーと ま
さみくんと 五人で のぼるにいさんのうちで すもうをすることにしました。すも
うが おわったので かえりました。すると かあちゃんが来ました。いえでゆうご
はんのとき ぼくが わるいところをききました。そしておたよりちようをかきまし
た。

かあちゃん　ねえねえとぼくの　こんちゅうさいしゅうの　あみとちゅうしやき二
つに　かばん　二つ　かつてちようだいね。　なつやすみになってからでもいいから
かつてください
ではおやすみなさい。

(母)

きょうは、ピーティーエーでした。おかあさんが、行ってくださるといったので、ぼくは、あさ、おそうじをてつだつて学校へ行きました。せんせい、ぼくとけんわくん、ともひろ、こうてつさんは、のこつて、づがをはってちようだいとおつしやつたので、みんなできれいはりました。花^かびんの花をかいたものでした。ぼくのは少しちいさいけれども、先生が、ほめてくださつたので、ぼくは、とてもうれしかった。

母ちゃんもみたでしょう。あと一まいというところへもう、おかあさんや、おとうさんがたが四五人みえました。家にかえつてから、のぼる兄(にい)さんやまさみくんと三人で学校へ行きスケートしていましたら、校長先生がきょうはおかあさんがたがみえるので、ガーガーしては、うるさいからあさつてのりなさいと、おつしやつたので、のぼる兄さんの家で、みんなあつまりスモウしました。

家で夕ごはんのとき、父ちゃんと母ちゃんからピーティーエーのおはなしをきき、ぼくは、せいせきはよかつたとほめられました。ほかのおともだちの事^{こと}などあまりいわないように、もつと、やさしくして、みんなとなかよくしなさいと、ちゅういされしました。

ぼくは、わかったことをなおしていくつもりです。

母ちゃん、ぼくとねえさんと二人に、こん虫さい集につかう、「アミ」と「カバン」
「チュウシヤキ」を、かっってくださいませんか。なつやすみになってからでもいいと
おもいます。

では おねがします。ぼくも、きつとわるいところを なおしていきます。

おやすみなさい

きょうは、ピーティーエーにでてくださいって、ありがとうございます。

七月二十一日 (母)

なおしたのを、ひまなときに、なんどもよんでみてちょうだいね。

ずがも、りかも、とてもよいせいせきでした。たかしくんをかいただがのえは、ほんとうに、よくできていました。

きょうの、おはなしを、心の中に、よくおぼえて、みつかポーズにならないで、これから、きそくたゞしくやっていきましようね。

できるだけ おたよりちように書いて下さいね。

ちゅうもんのは、かならずかってあげます。

おりこうさんでした。

十月二日

きょうぼくは そろばんがっこうで はじめて 手をあげて こたえが あつて
いたので うれしかった。夜は さびしかったので きつてのせいりをした。ずいぶ
ん たくさん あつまっていた。学きゅう日 六十三日 ください それから あした
スケートへ行ってもいいですか。

とうちゃんは じしゃく かってきたかな。とうちゃんは わすれんぼだから ま
た わすれたんじゃないかな。それから ぼく そろばんかってね。

では おやすみなさい。

おへんじください。

かあちゃんのへやはくらくてこわいので かいだんのところへおきました。

(母)

そろばん学校に行けてよかったわね。

かおるは何でも、よくやれます。

一生県命れんしゅうして、六級の免状めんじょうもとれたらいゝわね。
がんばってよ。

お金はおいておきます

おばあちゃんにしんせつにしてあげてね。やさしい心で・・・

おやすみ

◎じしやくは、ねえちゃんとふたりでかいにいくよう

十月五日　くもり　（母）

きのうの、スケートや、えいがは、たのしかったでしょう。

お話もききたかったけど、かえりがおそくて、さんねんでした。

きようは、なるべく、はやくかえるつもりですが、おみせの「きうりよう」日ですから、おそくなるかもしれないね。

さびしいのは、母ちゃんも父ちゃんもおんなじですが、かおるが、おべんきようで、いそがしいように、おしごとにいそがしいのです。

みんな、それぐ／＼べんきように、しごとに、自分のギムとせきにんをはたす事にしようけんめいがなければ、やがて家族がそろつてたのしくくらせるようになります。いつも、きそくただしくやりとおしていきましようね。

おばあちゃんにあんまり、わるい言葉をつかわないよう、やさしく、おはなしできるようにしてあげてね。

かおるは、やさしい良い子ですからできます。明日はおこづかいをたくさんあげます。　おやすみ

十月五日

きょうぼくは やすきやえ いってみましたが じしやくが なかったので かえ
つてきました。

お金は かみにつつんであったものを つかいました

それから きょう 六十三¢ もって いきませんでした

あかいはねの きふだい 五¢ください。

きょう そろばんがっこうで 三かいも こたえが あたっていました。でも
かいは まちがえました。

そろばんは とうちゃんが あしたか あさつて かつてくるそうです
では おやすみなさい

(母)

ジシヤクがなくてがっかりしましたね。お金かねの事こともそろばんの事ことも、とてもよくか
けました。だん／＼じょうずになつてきたようですから、これからもつづけてちやう
だいね。

母ちゃんはおそかったけれど、おたよりをみて、とつてもうれしくなり かやのそ
とから かおるとねえちゃんのかおを のぞきました。

そろばんは、とつてもよいのかつてきてくださるように 父(とう) ちゃんに
おねがいます。

ではありがとうございます。

こんやのたのしみにします。

十月六日

きょう ぼくは 夜 ひろしちゃんたちから 本をかりてきて よみました。きょうりゆうものがたりというしょうせつで ジャングルに 六人の子どもが はいって いて いちばん小さい子が キのうえにいますもしらないで てつぼうでうとうとすると ころを 女の子が あのさる なにもしそうにないわ。うつのかわいそうよ というと そうだねといって てつぼうをおろしました。そして 太陽がでると 男のこに みえたのです。そして たすけてから ほらあなにはいろいろとすると ころで つづくでした。

ぼくは こわくなって ベんきょうしつで やつと おたよりちようをとつて かきましました。ねむたくて じがきた ないです。
では おやすみなさい。

十月六日（母）

おへんじ　ありがとう

ひろしちゃんたちで、よんだ本のおはなし、とってもおもしろそうね。

母ちゃんも、かおるのかいたのをよんで、じぶんが、よんだようでした。

もつと何かよんだ時に、また話^{はなし}をきかせてちょうだい。

きょうも、母ちゃんおそくなつてごめんね。

あしたは、はやくかえります

十月七日
(母)

きょうは、父ちゃんに わすれないように、そろばんと、ジシヤクのお金を上げました。きつと、かつてきてくださるでしょう。よくそろばんのおべんきょうもしてね。

きょうは、先生もこられる日です。あんまりわがママをいわないようにしてよく先生にならってちようだいね。先生によろしく。

こづかいを一ドルあげます。かいものは、かならずまいにちかいてね。一ヶ月してあまったらちよきんばこに、いれられます。せつやくしてちよきんしましょう。おかねは、なくしないように。学校にもっていかないこと。

十月七日

きょうは 学校からかえつてきて ごはんをたべて すぐ ほうそうげきだんの
五年九組に いきました。ぼくは 男生と二に なりました。

五じになったので そろばんがつこうへ 行きました。いっぱいでしたので まだ
こない人のせきへ すわりました。

一\$ありがとうございました。十¢の五十¢は ちよ金ばこへ いれました。

かあちゃん きょうは 父ちゃんに そろばんだいとじしやくだい わたしません
でしたね。あしたは かならず あげてください。

ではおやすみなさい。

(母)

きようは十時にかえりました。

かおるちゃんは、とつてもいそがしくなりましたね。そろばんに、ほうそうげきだんに ぜんぶやれるから「えらいなあ」とおもいます。

そろばんとじしゃくの代金は、きようで、かならづ父ちゃんに、わたしておきます。きよう、父ちゃんは、おやすみになるとおもいましたので、ごめんなさいね。

ありがとう。また、おたよりくださいね。

十月八日　（母）

きょうは、かならずそろばんが、かおるを、まっているでしょうね。

げんきよく、きりつをまもるよう、いつもがんばってくださいよ。

父ちゃんに、おれいのことばをわすれないように。

おこづかいは、ずっとつかって、あまったら、ちよきんばこに入れるようにした方がよくなかったでしょうか。でもしかたありませんね。ちよきんばこは、あけないでね。

つくえのガラスは、しらいししようかいに、ねえちゃんと一しよに行つて、ぜひせいきゅうしていれさせなさいね。

ではおそいのでこれだけね。あめがふってきました。

十月九日（↓十月八日のまちがいらしい）

きょう ぼくが かえつて来て見ると そろばんと そろばん入れは ありました
が 方がくじしやくは ありませんでした。あしたの朝は かならずかってくるよう
いってください。

それからお金は

こうしよう

八セント

なふだ

二セント

おやつのパンだい

四セント

（みんな）八 二

四 一 四

十一 一

十四セント つかったので のこっているのは 八十六¢です。

では おやすみなさい

（母）

◎どうしてなかったのかきかずに、かならずかってくるようにいつて、とはかんが
えのないことばね。めいれいてきなのは親（おや）にたいしてしつれいですよ。

十月八日　よる　（母）

きょうは、十月八日でしたよ。

母ちゃんは七日のお返事をかいてから、朝またかいたのです。

そろばんもそろばん入も、かおるのために、父ちゃんは、わざわざおひるのじかんに来ておかれたのに、かんしゃのきもちがありませんね。じしゃくは、二つ三つのおみせに行ったがなかったそうです。自分（じぶん）のかってばかりいいわないで、へんせいしてことばをつかってくださいね。

父ちゃんは、なんげんもお店（みせ）をさがして行つたが、じしゃくは、なかったそうです。先生にどこにあるかきいてみてから日曜日にかつたらよいと思（おも）います。

十月九日

きょうは そろばんがっこうで わりさんは わかりませんでした。そのほかは
みんなわかりました。

それから、つくえのガラスも いれてありました。

そして 夜べんきようするときには ソケットをつけてスタンドをつけて べんきよ
うしました。

ごはんは やきごはん。とても おいしかった。

ではおやすみなさい

しゅうじがみ 一¢

(母)

いつも、おそくてごめんなさいね。

そろばん学校でわりざんがわからなかったそうですが、わからないのが、ざんねんだったでしょうね。でも、これからならつていくのですから、むりありません。だんだんわかるようになります。よく、いっしょうけんめいやりますね。かおるがとつてもよくなつてよい子になつていくのがわかります。

つくえのガラスもいれて、スタンドもつけられるし、これからは、べんきょうするの、よけい、たのしいわね。

おたよりありがとう。

五十セントはさみます。おこづかいよ。

せつやくしなさいね。

十月十日

きょう そろばんがっこうへ いくまえに あきぼうと いたずらをしてみずたまりに おちました。そして ようふくを きがえて またいきました。

よる かずえねえさんと いのやにいつて おもしろぶつくの本をかりてきました。いまからよみます。

先生は あした いかれるそうです。でも ぼくが いかれないといたので っかりしていました。

ではおやすみなさい。

十月十一日

きょう よる ぼくは かずえねえさんと けんかをした。どうしてといったら
かずえねえさんが かやから出ようとして わざと ぼくのところのかやを めちや
くちやにしたので とつてもおこった。でも かあちゃんは ぼくがわるいといっ
た。

ぼくは べんきょうしてて かずえねえさんに たたかれたので がまんできず
おおきなこえを出した。でも ぼくは おかあさんにしかられた。ぼくは くやし
かったが、がまんしました。
ではおやすみなさい。

(母)

かおるちゃん、しかつたりしてごめんね。

母ちゃんは、いそがしい時だったので、だれがわるかったか、よくわからなかったけど、おきやくさんだったので、大きなこえをだした人がわるいと思ったのです。でも、かおるも、いつも、大きなこえをだしてけんかするのは、やめてちょうだいね。おばあちゃんにも、よく大ごえだしているのをきいています。

くやしくても、がまんしたきもちは、とてもよい事でした。にんげんは、がまんするきもちがなければ、みんなけんかばかりになるでしょうね。ねえちゃんは、せっかく母ちゃんと、かいものに行ったのに、ししゅうの本がかえなくて、一日中家のおつかいばかりしたので、きぶんがくしゃ／＼していたのだと思います。ゆるしてあげてね。しかられたけど、かおるは、がまんしておたよりかいたのを、かあちゃんは、とても、えらいとかんがえます。

ありがとう。ほがらかになつてね。

ごほうびのかわりに、ちよきんに十セントあげます。

十月十二日

きょう　ぼくは　夜　先生と　べんきょうするとき　スタンドをつけてやりました。

それから78きゅうの　れんしゅうちょうを　かってきて　やりました。かけざんは25てんで　みとりざんが　40てんでした。でも　なれたら　100てんもとれると　先生がいつています　78きゅうの　れんしゅうちょうは　小さくて　とつてもかわいいれんしゅうちょうです。ねだんは12¢でした。

ではおやすみなさい

(母)

そろばんがすきになってきましたね。はやく、七きゅうも八きゅうも、とれたらよいね。そしたら母ちゃんともきょうそうしましょう。せいかくにおぼえるようにしてね。てんすうをとるためにあせつてはいけませんよ。いまに百てんとれるようになります。

やくそくの十セントあげます。

はさんでおきますから、ぜんざいでもかっていいです。

十月十三日

そろばんがつこうで 四年生が わりざんを わからなかったので ぼくが やっている と へえ おまえ わりざんできるのか、なんねんだいと いったので 三年だよという と ぼくは わりざんまだ わからないよ といったので ぼくは とくいになって れんしゅうすれば すぐできるよといいました。

夜は かずえねえさんに すずわりの おてだまを つくってもらいました。

でも うんどう会の花は 一つは きれいにできましたが 一つはしっぱいしました。あしたまた 一つ つくるつもりです。

では、おやすみなさい。

(母)

四年生にきかれてわりざんができると、こたえられてよかったわね。でも、父ちゃんがおしえられたとおり、まだ／＼カケざんをしんけんにれんしゅうするようにしてちようだい。今日は少しおそくなつてかえりましたからもうねます。十セントは、はいっていたかしら、おへんじにないのね。

十四日は、きれいなすゞわりおてだまをつくってみせてください。

十月十四日

きょうぼくは そろばんがっこうで 何まんなんせんなん百と よみきれました。
ひるは 三時間ぐらい ひるねをしました。おばあちゃんが「きょうは三時間もひ
るねをしているので いねむりしないはず。目はたっているよ。」と いいました。
先生はわらっていました。

そろばんのれんしゅうちようで いままでやってきたより 一ばんてんが よかつ
た。てんは四十五てんでした。
ではおやすみなさい。

(母)

たくさんねられたのに、晩は、やっぱりよく一番先にねてしまっていたのですね。うんどうかいのれんしゅうで、きつと、つかれるのでしょうか。「ねる子はそだつ」といいますから、よくねた方がよいのね。

そろばんは、てんが上がつてよかったわね。でも、がんばってもつとよいせいせきをとりましようね。

十月十五日 あめ (母)

かおるが、行つてから、ずっとあめがふつています。

母ちゃんがおきて、カサをさがしたら、すぐありましたので、久子ねえさんにもたせたけど、かおるは、みえなくなっていたそうです。ぬれたでしょう。母ちゃんはしんぱいでした。あめに、ぬれたら、カゼひくからです。きょうは、カッパをかってきましようね。

すぐきかえて、あたたかいものをたべ、あたたかいふくときかえてちようだいね。カサは、きつと、だれかにかしたのでしょう。かんがえてみてください。朝になつてからさがしてはダメです。母ちゃんは、ねられなくなりました。それでもよいけど、あめにぬれたことが一番しんぱいです。これから、自分のもちものは、もつとたいせつにホカンしてちようだい。気をつけることね。

十月十五日

やっぱり かあちゃんの いったとおり かぜをひいて しまいました。

でも 夜は けいたいラジオを きっていたので とてもきぶんは よかったけど
おたよりちょうをかくとき なんだかへんな きもちだったので あまり かけま
せん かさは がっこうにも ありませんでした。

おやすみなさい。

(母)

かぜをひいて、きぶんがわるいの、よくかいてくれました。母ちゃんは、とってもしんぱいでしたが、でんわかけてきたら、かえろうとおもっていましたのに、また、なんでもないといっていましたから、おしごとつづけていました。

もうすこし、朝は、待ってくれたら、母ちゃんが、ちゃんとカサをかしてあげたのにね。リウボウでカップをおおうと思っていたら、休みでした。あした、かっけます。

よくからだのことはきをつけてね。

言うことをまもるようにしてちょうだい。朝は、げんきなおをみせてね。

十月十九日

きょう そろばんがっこうの かえりに とみひら しずおにさんの いえを
つきとめるといつて しゆりのじどうしゃがっこうのところまで いきました、し
ようべんして いると みうしなつてしまいました。

ぞうきは つくれないので かあちゃんの たおるをもつていくことにしまし
た。

ではおやすみなさい。

十月二十一日

きょう そろばんがっこうで わりざんのとき まちがいました。
そして、よる せんせいをむかえに いって みると だれかが せんせいに
たかれて おじいさんがきて せんせいに もんくをいって いました。
かえりに せんせいが「くつが よごれて しまった。」といいました。
べんきょうをして そばを 三つとってきて たべました。
ではおやすみなさい。

(母)

先生に、たゝかれたのは、ほんとうでしょうか。仲尾^{なかお}先生が生とをたゝくはづはないと思いますが、もしたゝいたのでしたら、とても悪い事をしたのでしょうかね。

おやでさえも子供はかわいいけどたたく時があります。先生もおやとおんなじです。たたく時は先生の心も手もいたかった事でしよう。かおるちゃんは、たゝかれなくても良い子ですね。

そろばん学校に先生をむかえに行かないようにしてちょうだい。その時間があれば本を讀んで家で待って下さい。先生がごめいわくですから。

十月二十二日

きょうぼくは 学校で 休み時間に ヘビをみました。川のところで みんなが
さわいでいるので 行ってみると 白いヘビが しんでいました。ぼくたちがかえろ
うとすると ヘビを ちりすでばのひで やいていました。

いえにかえって じてん車をのりました。そして 家へかえってみると 五時四十
分だったので そろばん学校へ行きませんでした。ただ いったい やすんだので
さんねんに おもいました。

では、おやすみなさい。

ちようど かきおわった時 みんなの ねむるかねが になりました。

(母)

学校のそばに、ヘビがいるとは、おどろきましたね。よく気をつけてちょうだい。じてん車にあんまり「むちゅう」になり、そろばんの時間を忘れましたね。一回やさんだのが、気になるでしょう。これからは、時間をよくまもりましょうね。

きょう、かおるは病院びょういんにいったけれど、おくびょうでしたね。注ちゅうしやをこわがったりしてふるえるから、よけいハリがはいらなくなりいたむのもおおいのです。たべものによく気をつけてちょうだいね。

十月二十三日

きょう　ぼくは　学校からかえって　来たら、手を　あらって　リンゴジュウスを
のみました。そして、のりと　ごはんをたべて　ひさおくと　二人で　自てん車を
だして　のりました。

きょうは　そろばん学校へ行きました。

夜　先生が　来る時には　むかえに　行きませんでした。

では、おやすみなさい。

(母)

母ちゃんのいいつけをよく守(まも)ってくれてありがとう。手をあらいなながら、口をゆすぎ、ウガイをしたら、冬になってもカゼをひかないでしょうね。できたらずつとつづけてちょうだいね。けさは、七時にやくそくのようじがあつて、でかけましたので、かおるともねえちゃんともあわなかつたので、九時半にかえってききましたが、もうねむってしまっていましたので、ちよつときびしいきもちでした。げんきよくきりつをまもってやってちょうだい。日曜日には、一しよに一日中(いちにちじゅう)あそびましょうね。

十月二十六日

きょう ぼくは 学校で 先生にほめられました。それは ぼくのずがが かさく
になつて しんぶんに 名まえが でていたのを見てからです。その時 ぼくは と
てもいいきもちでした。

そろばんがっこうでも できない人がいたので とくいになりました。でも、ばん
ひさこねえさんが あまりいばったら おちるよといわれて、ぼくは ほんとだ、
そうだな とおもいました。

そして、そろばんで 先生に はかつてもらつて、54回も いれました。一ぷんで
ではおやすみなさい。

(母)

かおるちゃん、おめでとう。けき、しんぶんにでているので、母ちゃんも、うれしかった。もつともつといっしょうけんめいやれば、きつと一等にもなれると思います。がんばってね。さくぶんもだせばよかったのね。このつぎまでうんと、べんきょうしてちょうだい。いばらないでやろうとおもったのは、えらいですね。ごほうびは、なにがよいでしょうか。

きょうは、とつてもうれしかった。ありがとう。

十月二十七日

きょうぼくは 学校で ポスターのえが よくできたので 先生に ほめられました。

ぼくは、はやく しょうじょうを もらいたいなあと おもいました。

ほうびのかわりに ちよ金十 円 ください。おたよりちようを見て 母ちゃんにほめられて うれしかった。かえりに せんせいに しんぶんを 見てもらったら よかったねと ほめてもらった。ぼくは みんなに ほめられて とてもうれしかった。では、おやすみなさい。

(母)

まいにち、よくおたよりをかいてくれて、ほんとにありがとう。母ちゃんは、どんなにつかれても、おたより帖をみると、げんきになり、とてもうれしいのです。だん／＼文し^{じようず}ょうも上手になつてきましたね。だけどじのぬけたところや、まちがったところがよくありますから、母ちゃんがペンでなおしたところは、よくみてちょうだいね。みんなにほめられて、ほんとうによかったわね。もつともつとがんばつて、きつと一等になれるようにしてね。ちよきんは五十セントあげましょう。よい子でした。

十月二十九日

きょう ぼくは、学校で じどう会へ 行きました。じどう会は 台風で 家をこわされた家や こまっている人たちのことでそうだんしました。ぼくは いるいや学用品と おかねをあつめた方が いいというのにさんせいしました。

かあちゃん ぼくは 学用品とお金10¢もっていきます。
ではおやすみなさい。

かずえねえさんは いまから おたよりちようを かいています。

(母)

ねえちゃんは、いまからかいていますといつても 何時なのかわかりませんね。なるべくさいごのところに時間いれてかいてね。

じどうかいできめた事はとてもよい事です。私たちも水にたたみをぬらしたけれど、すぐ新しいのをかえたり、衣^いるいをぬらしたり、本をながした人たちは、多ぜいて、きつと困^{こま}っているでしょうね。じぶんのできただけでたすけてあげたらよい事だと思ひます。

きよう、さんぱつに行つたかどうか書いてありません。わすれましたね。

これからわすれないでかいて下^{くだ}さい。

十一月四日

きょうは えいがけんがくです。かあちゃんはまだ おきません。かあちゃんのところへ 十五¢をもらいにいくと とうちゃんからもらいなさい といったのでいってみると ねむっていたので おばあちゃんから十五¢かりました。それから えいがかんで エミールと少年たんでいたんで きしやの中で エミールが お金をとられたので エミールは あとをつけます。少年たんでいたんは百人もいます。とてもおもしろかった。(母..みんなでドロボウをつかまえるのでしょうか)

それから そろばんのげっしやを四十五¢ おばあちゃんからかりました。

ではおやすみなさい。

ちよきん十¢ください。ぼくはちよ金をためて やきゅうのお面をかうつもりです。では、やきゅうの面をかいてみます。



のぼるにいさんのボールをなくしたので三¢ください。

(母)

今朝はごめんね。ゆうべ父ちゃんのかえりがおそく、ねむらなかつたので、あたまがいたかつたのです。

えいがけんがくは、とつてもたのしかつたでしょうね。

エミール少年と少年たんでいさんは、仲がよく勇気もありますね。みんなが心のよいお友だちだったおかげで、お母さんにあづかつたお金を、ドロボウからとりかえしておばあさんにあげるのです。自分がうっかりあめ玉をもらつたのでそのねむりぐすりでとられるわけですからせきにんを感じたわけです。そのえいがの中からみならうべきなのは少年ぜんたいのきょうりよくせいしんだと思います。ひとりだけではできない事を、みんながエミールのためにがんばってくれるのですね。やきゅうも、チームワークといつて9にんが心一つにしてこそかてるのです。みんなと一しよによいしやかいをつくるようにがんばりましょうね。十一月のおこづかいは一ドルあげます。まい日つかつたものをかいてね。のこつたら三十日にちよきんばこへいれるように。やきゅうのお面は、きつとクリスマスにかつてあげたいと思います。

十一月五日 はれ

きょう ぼくは 学校へグローブをもつていこうとすると、やぶれていました。母
ちゃんが ふとんぼりでできたら ぬつてください もしできなかつたら たたみや
さんへいつて ぬつてもらいます。グローブは おたよりちょうの上へ おいておき
ます。

五¢ ぜんざい

二¢ あめ

三¢ ボールのべんしょうだい

では おやすみなさい。

(母)

のこりは、いくらですか。

◎ かならづのこりの金がかくを

かいておくこと

(母)

のこりの金がくをかくこと。

朝、おたより帖に一ドル十三セントはさんでおいしたのは、うけとつたでしようか。ゼンザイやアメをかいすぎませんか。それではチョ金箱にいれるお金は残らないでしょうね。せつやくしてこそ、チョ金のかいもあると思います。

時どき、とてもほしい時はよいのですが、家にもおやつはあつただろうと思うのです。父ちゃんも母ちゃんも夜おそくまではたらいっているのですから、なるべくむだづかいしないようにしてね。

グローブはたたみ屋さんに持って行ってなおしてもらおうようにしてね。

「おやすみ」

十一月六日

ぼくは きょう 学校に しんじゅがいを もつていきました。

すると、先生が「めずらしいかいですね。」と みんなにおつしやいました。

そして、先生から しんじゅがいの話をきいて ほんとに めずらしいかいだなと思いました。

しけんは 100 = でした。さんすう ニ学きじゆうに あつめたしけんを おたより

ちようの上へおいておきます。

ではおやすみなさい。

さんすうちようめん 3¢

(母) ◎ざん金をかくこと◎

(母)

今夜もおそくなつてかおるの顔をみられずとてもさびしかった。だけど、おたよりをみて、安心しました。しけんは、よくできていますね。がんばってくれてありがとう。しんじゅ貝^{かい}は、どこから持ってきたのですか。めずらしいものを持って行って皆のために色々のお話をきいてよかったわね。母ちゃんは、銀行^{ぎんこう}の二年目のおいわできねん品のオルゴールをもらいました。音がくをきいてみてね。かおるちゃん、わすれんぼうですね。きのうのおたより帖をもう一度よんで下さいね。そしてかならずへんじをかいておくように。

つづく

十一月七日　（母）

しけんをみました。よくできた方ですが、れんしゅうの、水害のしらべのは、四十
八点ですね。あれは、かおるが、よくおちついてもんだいをよんでいないからだと思
います。

あつめてあるのは、とてもよい考えです。まちがつているところは、何度もよくよ
んで、もういちどやつてみる。ド力をしたらよいと思います。十セントあげますから、
チヨ金バコにいれてね。はやくいっぱいになるとよいね。

母ちゃんのかいてあるのをよくみてから、また、おへんじをかいしておくことをわす
れないでね。一日中の事を何でもかいてくれたら、母ちゃんはとってもうれしいので
す。正直にすなおに、まじめにね。おねがいます。

日曜日の朝から名ゴへ行きますか。母ちゃんはおみせのしごとがありそうで、こん
どもいっしょにあそべないと思います。

十一月七日

きょう ぼくは ひろしちゃんたちの所でやきゅうをしました。

そろばん学校で 二、三人しか 出きないもんだいを ぼくも できました。その
時、ぼくは はづかしかったのでうつむいていました。

それから ねえさんが あしたは パンをたべて いくよといったので ぼくも
さんせいしました。

母ちゃんとあそべなくても なごへ いくのでいいです。

十¢ちよ金はかならず ください。

ではおやすみなさい。

(母)

十セントは、朝あげます。

まいにち、やきゅうはたのしいでしょうね。

どんなに上手になっているか、いつか日曜日にでもみせてちょうだい。

そろばんも大へん上手になっている事でしょう。問だいがよくできたのに、なぜはづかしかつたのかしら。そのひょうげんは、あまり感心しませんね。

ナゴに行ってもツル子姉さんたちのいう事をよくきいてカゼをひかないように、あんまり遠くへ行かない事ね。母ちゃんのおへんじは、まだわかっていませんね。あえないで行くかもしれません。

十一月八日

きょう　ぼくは　あさは　あたまがいたかつたので　おそくまで　ねていました。
夕方ごろ　大しろの　ねえさんが　かあちゃんが大しきゆうおいでと　いったので
洋ふくを　きがえて　たいおんけいで　はかつて見ると　八どもあつたので　文ち
やんが　行くなといったので　洋ふくをきがえてまたねました。

それから　夜　おばあちゃんたちといっしょに　おはじきをして　かちました。
ではおやすみなさい。

(母)

父(とう) ちゃん 体温計(たいおんけい)

洋服(ようふく) 今日(きょう) 大城(おおしろ)

母(かあ) 朝(あさ) 頭(あたま)

かんじはもし習っていないればつかわなくてもよいのです。

また、かぜをひいてしまったのね。あんまりおそくまで、外であそんでいたからだ
と、おばあちゃんはおっしゃっています。今ごろのカゼは、気をつければ、ひかない
けれど、ユダンするとすぐかゝります。昼はあばれてあつく汗(あせ)かき、夜は涼しいので、
ねびえするのです。学校からかえたら、よく手足を洗って、ウガイして少し体(からだ)
休めてからあそびにでてちょうだい。長いじかんあそばないで、休み／＼家にかえつ
ておやつをたべるよう。夕方は、かならず、洋ふくをきかえて、ウガイして手足を洗
い、ゴミを流してから、夕ごはんをいたゞきましょう。かおるは一番、体が弱いので
す。自分でも気をつけて、カゼにまけないようにしてね。

かえったら、母ちゃんと買物(かいもの)に出かけます。姉ちゃんがかえるまで家でしづかにし
ていてね。

あたまは、もうだいじょうぶですか。

十一月九日

きょうぼくは つるこねえさんといつしよに とりかごをかいにいきました。一\$の一ばん大きいのをかいました。ウグイスはかいませんでした。ですから あしたかいにいきます。

かいものに いくといって きょうもいかなかった。ぼくは とてもつまらなかった。

今夜は 先生は ごはんもたべないで かえられました。

六十¢ください。

(母) お金のかんじょうを

ではおやすみなさい。

わすれないで

(母)

きのうも行けなくてほんとにごめんね。でもつる子姉さんが買ってくれたのですから日よう日までは、あきらめていてちょうだい。

小鳥をもう一羽かいたいそうですが、しばらくはその一羽でがまんしていてね。よくかいならせるようになってから、またかう事にして、まいにちかいものとか何かで、お勉強を忘れているようですね。そろばんも二日休んでいますから、とりかえすためにもがんばってね。らいねんは、会ギ所のしけんをうけるのですから。

おかねは六十セントはさみます。

姉ちゃんにありがとうをいってかえしてね。

十一月十六日

きょう 左馬のおばさんと えいがをみに 行きました。

こいや山びこでは 大川はしぞうが 二たやくでした。

べらんめえたんていむすめでは ひばりが たんていになつて いました。

かえりは らいらいけんで オムライスを たべました。

おばさんが クリスマスに かずえとかおるちゃんに テレビをかつて上げるといったので ぼくは クリスマスまであと何日あるか かぞえました。

かえりは おばさんが おばあちゃんにおみやげといて 何かかつて ぼくたちに タクシーをのってかえんなさい といったので おばさんから三十＄もらつてタクシーにのりました。

家まで 十七＄でいけるから あまつた分は ふたりでわけなさいと いったので いえで ぼくは七＄ かずえねえさんは六＄もらいました。ぼくは ちよ金にいました。

ではおやすみなさい。

十一月十七日 はれ (母)

きのうは、とつても、たのしい休みでしたね。じゅん子姉さんのおみおくりもや
たし、ハイヤーでえいがにも行つたし、とつても、よかつたでしょう。

母ちゃんもいっしょにあそびたいけど、おばさんとこうたいしないと、おしごとが
こまるのです。母ちゃんがおばのかわりにはたらくから、今はおばもらくになつてい
るそうです。

さて、きょうは、ふたりのためのテレビをかうため、おみせをまわってきます。お
なじかうなら、はやくかつた方がよいでしょう。たのしみにして、まいにち、きりつ
ただしくよい子になるよう はげんでちょうだい。

おばも母ちゃんをはたらかせるから、二人を母ちゃんのかわりにかわいがつてくだ
さるのです。

おべんきょうもしつかりやつてね。きょうは、二日ぶんとりかえすよう、せんせい
がこなくともやつてね。

十一月十八日

きょう ぼくは 夜 バスのりばのまえであそんで いたずらをして おみせのガラスをわかりました。それで ぼくは こずかいを 見て見ると 三十¢ しかありません べんしょうだいは 五十¢ですから あと二十¢たりません 二十¢ください。

鳥の えさをかえる時 べんきょうべやで かえるので どこかもしめてやりました。そしてついに にがして しまいました。また つかまえました。

ではおやすみなさい。

かあちゃん。ペンがないようですから ボールペンを はさんでおきます。青しかありません。

(母)

りゆうははつきりかいてね。

大へんないたづらをしたんですね。おみせのガラスをわるなんて、いったいどんな事をしたのです。バスのりばは、どこですか。どうしてそんな所まで行ったのですか。よく書いてください。

べんしようする金は上げます。

小鳥は朝もネコがねらっていました。よく気をつけて、だいじにそだててね。ペンのこと、よく気がついたわね。ありがとう。母ちゃんのペンありましたよ。ちかごろ、あそびがすぎているようですから、心をひきしめてちょうだいね。

十一月二十日 金よう日

きようぼくは そろばん学校で そろばんぶくろを あけて見ると 四だまのところがぬけています。ぼくは びっくりしました。こんどかった そろばんだのにもうこわしてしまったので とてもすみません。これからは きをつけます。

それから 二十五¢ 早くかえして下さい。五十¢は、はさんでおきます。ガラスべんしょうだい

ではおやすみなさい。

(母)

そろばんのことはききましたのでかきません。じぶんでよく気をつけて下さい。

二十五セントのかわり五十セントをそのままあげます。ガラスのべんしようも、五十セントだして、どんなきもちですか。

母ちゃんからだしてもらって、早く二十五セントかえしてとは、いわないのがよいでしょうね。

こづかいがたりなければ、もつとよいかきかたをかんがえなさい。

十一月二十一日

きょうぼくは 学校で テスト 九十五でんで さいこうてんだったので とてもうれしかった。

かあちゃん 五十¢ ありがとうございました。あしたは サッチャンねえさんたちのおんどう会なので 見にいきます。

あしたは 少年と 少女を かってくださるそうですね。

ぼくはともうれしかった かずえねえさんは なにもないそうなので 五¢上げました。

ではおやすみなさい。

(母)

おへんじおそくなりました。母ちゃんは夜十二時すぎて帰ったので今日書きます。テスト九十五点は、よかったですね。でも何のテストだったのでしょうか。

かおる君、さいきん、少し本読みが足りたりないようです。文しょうも字もだんだん悪くなっている様な気がします。もつといっしょうけんめいにやってください。おねがいします。よい日よう日でしたね。雑誌ざっしは買ってきます。

家をよくみて、夜はがいしゆつしないこと。

十一月二十四日

きょう 学校のしゅくだいで 友だちと しゅりまで ずがをかきに いきました。
た。

しゅりでは はんぶんしかかけなかったので 家で 先生にならってかきました。
そろばんがっこうで 一回ちがいました。おいしいなあと思いました。

少年のざっしありがとうございました。
ずがをはさんでおきますから 見てください。
ではおやすみなさい。

(母)

首里しゅりに行く時は、なるべく三人ぐらいで行って、姉ちゃんにもよく話して行くようにしてね。しゅくだいでも、遠いところへ行かずにすむのは、近くでかくようにしてちようだい。仲尾せんせいにもそうだんしてからね。

づがはとても色ぬりがよくできていますが、二かいの家が少しゆがんでいます。

やねの方はむつかしいでしょう。

よく見てごらんあさい。

父ちゃんもみて下さいました。

では、ありがとう。そろばんはがんばってね。

十一月二十五日

きょう 学校からかえって 来て 見ると 小鳥は しんでいました。

ぼくは かawaiiそうに 思いました。

どうしたのかなあ 一かげつも 生きていた鳥が どうしてしんだのかなあと
もいました。あと一ぴき うぐいすを かってください もし かえなかったら
るでもいいです。

ではおやすみなさい。

あしたは おべんとうです。

(母)

かわいそうに、小鳥は死んだのですってね。エサや水をかえなかったのですか。カヤをかけてやればよかったのに。

土を堀(ほ)ってうめてやればよかったわね。

またいつか、買いましょうね。

さいきん、仲尾先生とは仲良くやっていますか。

お勉強をきちんとしてからマンガなど読むことにしてね。

かおるは、朝はとってもはやいけれど、あんまり、本よみやかきとりするのがみられなくて、さびしいのです。

母ちゃんにも、おべんきようするとところをみせてちょうだい。

十一月二十六日

きょうぼくは そろばん学校がおわって 家へ 行きました。

先生がきたので夕ごはんをたべました。

かずえねえさんはと きくと カゼをひいて ねむっているよと いいました。

どうしたのかなあ きょうひるは ガールスカウトといって 元気に出ていったのに かえって来ると かぜをひいているので へんだなあと思いました。

それから先生といっしょにつくったまっちのいえみたいなのを かずえねえさんのをみて つくりました。

まだ半分しかできていないので できたら おたよりちょうの上に おいておきます。

ではおやすみなさい。

(母)

マツチでつくった家はりっぱですね。

けんちく屋は、あんな風にしてを一本づつけいさんしてたてるのでしょね。

仲座のおじさんもそのしごとをしておられます。

和江姉ちゃんも、カゼひいてしました。

かおるちゃんも、ひえたりしないで、よくうがいしてねないとカゼひきますから、きをつけてちょうだい。

ありがとう。朝のようにならないこと。

十一月二十八日

きょう　ぼくが　学校からかえつてみると　すきやきをしていました。
にくはとてもおいしかった。

そして　あそびにいつて　かえつて来ると　テレビが　ありましたので　ぼくは
しんぎおじさんの　てつだいをしました。

そしたら　もう　はつきり　うつるようになりました。

テレビは　たいへん　ありがとうございました。と　かおるがいつていたと　おば
に　いつてください

ではおやすみなさい

十一月三十日

きのうは　へんじかいていませんでしたね。

かあちゃん　は　やっぱり　いそがしかったんですね。

ぼくたちは　学校がおわると　ごはんをたべて　学校へ　ハンマーとのこぎりをも
つていって　ふみいたをつくりました。

そろばんも　しょうぶに　上^{あが}りました。

それで　ぼくは　おこづかいを　ちよ金に入れてしまったので　ひさこねえさんか
ら　三十六 ϕ かりて　かってきました。

ではおやすみなさい
おたよりください

(母)

かおるちゃん、ほんとに、ごめんね。

おたよりはすぐ見たけれど、その日あんまりかえりがおそくなり、また二十九日の朝は、早くでかけたので書けなかったのです。すみませんでした。

そろばんは、初等部に上ったんですってね。もう、しつかりできるようになったのでしよう。おめでとう。久子姉さんに、お金は返しました。

それからおこづかいは、次のをもらうまでは、ちよきんばこにいけないように。

テレビは、毎日とっても楽しいでしょう。作文を書いて下さい。「テレビ」というだけで。買ってもらった話から見る時の嬉しい気持や、かんしゃの心とか、まとめて書けたら、良い文ができると思います。

母ちゃん父ちゃんは、毎晩おそいので、遊んで上げられないのですが、そのかわり、テレビも買ってもらったのですからね。かおるは、きつと書けるでしょう。

おこづかいは、明日晩にあげます。

十二月一日

きょう 学校のずがを わたす時 三枚とも5一でした。

家に行くとき とうると ぎぜんにいさんが 来ていました。

ぎぜんにいさんが おかしでもかいなさいと ぼくに 二十五φくれたので あり
がとうございますといって もらいました。

ちよ金に入れてもいいですか。

ではおやすみなさい。

(母)

きのうのおへんじは書いてありませんね。テレビのお話はいやですか？
ちよ金はいれてもいいでしょう。

ずがをわたす時ではなくて、ずがはとか、学校に出したずがは、三枚とも5でした。
というふうにかいたら、よいでしょう。

とうるではなく、とおるちゃんといったらかわいいゝですね。

今夜は、十時半にかえりました。

最近、自てん車にのらないようですね。じてん車はさびしそうです。
時どきのつたらよろこぶでしょう。

姉ちゃんといっしょにおのりなさい。

もつと母ちゃんのおたよりをよんで下さい。

十二月二日

きょう 家で テレビをみました。み空ひばりの 八ぴやく 八町でした。

かずえねえさんは おくまんちようじやとかいうものを見てから ねるそうです。

そろばん学校では かけざんや わりざんの 二けたが わかりませんでした。

あした きくつもりです。

おこづかい は もう なくなりました。

十二月のおこづかい は まだもらっていません。四十五¢のそろばんのげつしやも
まだだしていませんので ください。

ではおやすみなさい。

(母)

テレビのお話は、今日始めてですね。とてもおもしろかったでしょう。

これから母ちゃんは毎晩おそくになると思います。しつかりやってちょうだいね。

おこづかいとそろばんの月しやを一ドル五〇セント上げます。母ちゃんへのおたよ
りを書く前に、まづ母ちゃんの書いたのをよくよんでちょうだいね。

ちかごろは、あんまりくわしくかいてないようです。

母ちゃんはとってもさびしいのです。

十二月三日

きょう ぼくは 一Φで さじのあたるくじをひいて みごと あたりました。
このさじは さとういれにするつもりです。

テレビは おぼはんと いうものをやるんですが やりませんでした。

かずえねえさんは きょうも ぼくを いじめました。
ではおやすみなさい。

(母)

かおるちゃん、おねがいです、学校のかえりとか、そろばんのかえりは、まっすぐお家に、かえってちょうだい。

きょうは、おべんきようもしなかったんでしょね。母ちゃんはおそくなりましたが、いつもかえってから、かおると和江の事を、きゝますよ。

いじめたなんていう言葉は、なぜですか。ねえちゃんのいう事に口ごたえをしたのですか。

家にいる時間とあそびに行く時間をきちんとするようにしないと、母ちゃんは、おしごとに出られません。

子供がふしまつになるのでは、親のせきにんになりますからね。よく考えてへんじ下さい。

きつとわかってくれるでしょう。

十二月七日

きょう 学校で 先生がいないので 六くみの先生が 子どもをうんだので きょうは じぶんたちでしずかに じしゅうしておきなさいと いったので ぼくは じしゅうを させました。

そろばん学校では、みとりさんではじめて てんすうの 三十てんをとりました。こんど 十七日に じゅくないしけんが あるそうです。かていきようしせんせいがかけてみなさいと いいました。かあちゃん うけてもいいですか。

テレビは とてもおもしろいです。かあちゃんたちとみたら もっとおもしろいだろうなあと思つた

ではおやすみなさい

(母)

先生に、おみまいの品を何々買ったか書くべきだと思います。赤ちゃんができて先生は、とつても喜んでいた事でしょう。さくぶんを書いておみまいしたら、次の時にもっとお喜びになりますよ。

テレビもおもしろいでしょうが、おたよりをあわてて書いてありますね。

字がともきたなくかおるの心の中がみえるようです。もつときれいな心でね、かいて下さい。おねがいます。

十二月八日

きょうから かわりの 先生の おおしろせつ 大城節という 先生が 来ました。学校では みんなのしく ぶんきょうしました。

先生が 教室にはいつて いらっしやる時 しづかにしていたので 先生が この組は みんな いいせいとですねといったので ぼくは とてもうれしかった。

先生へのおみまいは 赤ちゃん用のミルクは七十¢ りんご二コで十五¢でした。それで十五¢おつり だったのですが それは こづかいと いっしょにして つかってしまいました。すみません。

テレビは 先生とぶんきょうをしていたので 八時半からしか見ませんでした。

先生へは あと 一か月ぐらいしてから 赤ちゃんへのおもちやを もって行きたいと思います。

きょうからは 字はきれいに書きます。

はも いまからみがくところですよ。

ではおやすみなさい。

十二月九日　（母）

かおるちゃんありがとう。

すぐわかつてくれて母ちゃんうれしい。

やっぱり父母が一生懸命働くかいます。夕はおそくなって朝も起きられないで二人のかわいい子供の顔がみられなくて心残りがしました。それでもおたよりをみて、とつてもうれしく、よい気持でおしごとに行けます。

今夜はなるべく早くかえります。

和江姉ちゃん試験がはじまっているそうです。お勉強をじやましないで、二人で仲良く勉強して下さい。

仲尾先生も毎日待っていられるそうです。時間をよく守って外に出る前に先生のいらつしやる時間を考えておいてね。

大城節先生にほめられてよかったですね。

きつと受持の先生もお喜びでしょう。

赤ちゃんといっしょにやがて元気なお姿で学校へいらつしやるでしょうね。

よい心がけで大城先生とお勉強してね。

大変良い子になりました。クリスマスには、よいおくりものがありますように。

きょうもがんばって下さい。

お小遣いをはさみます（五十セント）

十二月九日

きょうは 九日です。十七日まで、あと八日しかありません。しけんを うけてもいいですか。今で 二どめです。

きょうは 先生に 十分間 はかってもらって わりさんは 九十五てんでした。これだったら わりさんは オークです。でも かけさんやみとりさんがだめです。今からどんどんやっていきたいと思えます。

テレビの しみずじろちゃんは とてもおもしろかった

また はを みがいて いまからじょうぶなはをつりたいと 思います。

ではおやすみなさい。

(母)

おこづかいは五十セント受け取ったでしようか。いつもよくよんでないのですね。十七日のそろばんのしけんのため、よくがんばっているようですね。かげさん、みとりざんを、毎日れんしゅうして九十点とれるようにしてちょうだい。今のようにやつていけば、きっとよいせいせきで七きゅう六きゅうと合格ごうかくですよ。

ハもみがいている中に虫バがなくなりますでしよう。

明日も又、実(じつ)行して下さい。ありがとう。

十二月十日

こづかいは もらいました。ありがとうございました。もう三十¢しかありません。
どうしてといったら 二十¢は 子どもはくぶつかんの見学だいです。

学校では なわとびが はやっています。ぼくのは、きれたので かいました。
そろばんは 二けたのかけさんを せんせいから 教えてもらいました。

家のテレビのアベッククイズ大会を見ました。

いまからはをみます。

ではおやすみなさい。

(母)

今日の朝は、とても良かったわね。毎日／＼つづけて実行してちょうだいね。もうすぐクリスマスとお正月がきます。

たのしくすごせるよう、がんばっていきましよう。

父ちゃんも母ちゃんも、一番、十二月はいそがしいので毎晩おそいのです。さびしくても、それぞれのお勉強に精出していつてちょうだい。

朝は起きたら仕度したくをして本読みとかきとりをやるよう心がけて下さい。おそいのでこれだけにします。

毎日、ほんとにごくろうさんです。

十二月十一日

なわとびは かけるも 出きます。

けんけんの かけるも 出きます。

そろばん学校では かけざんは 五十五てんでした。

かあちゃん クリスマスの日は 朝から 休みですか。

さびしくなんかありません ともだちがいるもの さびしいことなんかないよ。

かあちゃんは テレビの アベッククイズ大会に スリビツク大会とかいてあります。

きょうは テレビは あまりみませんでした。

学校で したしきがおれたので かいます。

もう は はみがきました。

ではおやすみなさい。

(母)

毎日おもしろいお話ありがとう。

なわとびは、足と共に全身ぜんしんの運動にもなるので、とてもよいものです。

色々のとび方をおぼえて日曜にいっしょにみせてちょうだい。

テレビのアベッククイズはアの字じが3さんに見えましたので3はえいごでスリーというのでそう思ったのです。アのじは正しくかくようにしてね。

したじきは買ってよいでしょう。

また明日はよいお話きかせてね。

十二月十二日

きょうは 学校で 先生に ほめられました。さんすうの時間に 一ばんはやくやつて あたったのです。

なわとびは ぜんしんのうんどうに なると きいたので きょうも やりました。

うんどうをして もっと高くなり 自てん車をのれるようにします。

したじきは十¢の じょうとうを かいました。

テレビは あまりみませんでした。

でもきょうは 小学三年生を 父ちゃんが ぼくに 下しました。

いまから ハを みぎきます。

では おやすみなさい。

十二月十三日 朝 七時 (母)

皆がよく寝ているので、静かに出かけて行きます。急ぎの用事があります。

先生にほめられて、かおるは、いつも良い子ですね。

かえったら色々の相^そだんやお話などしましょう。長田のおじさんが来られると思います。よくおそうじもして勉強室もかたづけね。

今朝^{けさ}も陽は輝やいています。

たのしい一日をおくりましょうね。
行つて参ります。

十二月十五日

きょう 学校で かくれんぼを しました。

みんな にげると ぼくは さがしました。

ぼくは おには、すぐ こうたいでした。

かあちゃん ぼくは もう おこづかい は ありません。

かずえねえさんは てちょうに 子どもはくぶつかんのけんがくのけんを はさんでいます。ぼくもないので かってもいいですか。

それから 四年の学しゅうねんかん 七十五¢だそうです。

かってもいいですか。

テレビの ハイウェイパトロールで そらで ヘリコプターで つかまえました。

いまから はを みがきます。

ではおやすみなさい。

(母)

自分の書いたのを、もう一度読んで下さい。

何を書いてあるのかちよつとわからないですね。

かくれんぼの事もわかるし、おこづかいの話もよくわかりました。

さいしよにおにだったのをかいてから、つぎにこうたいしてと書くのね。

四年の学習年鑑^{がくしゅうねんかん}は、まだはやいと思います。

テレビのパトロールが何をつかまえたのですか。

空の字は忘れましたね。

おこづかいは一ドルはさみます。二人でね。

十二月十五日

きょうは 学校での しけんは 百てんでした。

ぼくは あした 学校でつかう じしゃくをかいます。

クレパスもありません。

手ちようもかっていいですか。

そろばん学校では かけざんが 五十てんありました。

家のテレビは おもしろいです。

さむらいのもので さむらいが わるものを みんなきります。

とてもおもしろいです。

いまから はを みぎきます。

ではおやすみなさい。

(母)

毎日 ハをみがくのをわすれないで実行していますね。良い子です。しけんも百点もらったのね。ありがとう。

じしゃくは、前に買わなかったでしようか。手帖も買ったとおもいますが、さがしてごらんね。もしなかったら買ってもよいけど、ムダにしないようにおこづかいを使つてね。

明日もまたおそくなると思います。

外で遊ぶ時間はよく考えてね。悪いあそびをやめるようにお願いします。

玉ぐわ、くわあーえとかやめてね。

かんじをよくわすれています、気をつけて。

十二月十七日

きょうは そろばん学校で じゅくないしけんが あります。ぼくは うけること
になっています。

だから きょうも れんしゅうしています。

ひるは 先生が グライダーを ずこうのじかんにつくるといったので かつて
れんしゅうをしました。

テレビは みませんでした。

いまから はを みぎます。

では おやすみなさい。

こづかい は もう一円もありません

(母)

こづかいをはさみます。一ドルです。

じゅくないのしけんのけつかを明日知らせてちょうだいね。

くればすはみせてね。

グライダーはいくらで買ったのですか。

おこづかいは一セントもありませんと、書いてありますが、何と何をいくらで買って、ぜんぶつかったというけいさんして下さいね。

母ちゃんは今朝朝寝^{けさあさね}して、かおるの顔をみませんでしたので、とっても気にかかりました。今夜もおそかったので、またみられなかったけれど、げんきそうにねむっていましたので安心でした。

よくきりつを守ってくれてありがとう。

十二月十九日

きょう そろばん学校で しけんの てんすううは かけざんが八十てん、わりざんが五十てん、みとりざんが五十てんで ごうかくでした。

一月五日に しょうじょうは わたすそうです。

グライダーは、十五¢でした。

そろばんの六きゆうをはるがくをかって下さい。

夜は きょうも おそいそうですね。

あしたは 先生は 朝から来るそうです。

きょう 先生といっしよに グライダーを作っていました、きょうだけでは
きませんでした。できたら かならず おかあさんに見せます。

ではおやすみなさい。

かあちゃん あしたは 休みですか。

(母)

明日は、日曜日なので一日中家に居ります。
おへんじは明日書きます。

十二月二十日夜　（母）

今日はたのしいおやすみでした。

朝もおとなしく勉強してくれてありがとう。

そろばんも六きゆう合かくしましたね。じゆくないしけんよりも、全しゆれんのしけんはむつかしいのですから、もつともつといっしょうけんめい、れんしゆうして、かならず、ぜんしゆれんのしけんも、合かくするようはげんでちょうだい。

クレパスもぎつしも買ってもらったのですし、ぜいたくしないでけんやくして下さいね。お父さんにもいわれたとおり、こづかいを大事に使うようにしてね。

グライダーもそれだけにして、つくり方もよくおぼえて、むだのないよう気をつけて下さい。学生はけんやくしてこづかいを使うのがほんとうなのです。

少しぜいたくしていたようです。

テレビやラヂヲも、きるもの、たべるもの、買えない人がいっぱいいるのです。

かおるは、良い子ですから、きつと考えてくれると思います。ふだんせつやくしてこそ、クリスマス、お正月、たんじょう日には、皆いっしょにたのしくすごせるのです。こんごは、みんなでもつとせつやくしましょうね。

十二月二十一日

きょう 学校で おしくらまんじゅうをして あそびました。
そろばんがっこうでは 三つ四つ こたえが あたっていましたので よろこびました。

テレビのもので あけぼのげきじょうのしばいもしました。

おばあさんはよろこんでみていました。

クレパスや少年のぎっし ありがとうございました。

それからじてん車のパンクもなおして来ました。

ではおやすみなさい。

(母)

かおるくん、じがとてもみだれてきたなくみえますね。大いそぎで書いたのでしょうね。

おしくらまんじゅうも、テレビをみるのもよいけど、つね子姉さんや先生方におたより書きませんね。

そろばんは三つ四つ答があたったとの事です、いくつのもんだいの中にあたったのかわからないのがさんねんです。

もっとおちついて、いそがずに、かいて下さいね。

こづかいはいくらつかっていくらのこったのか、しらせて下さい。

十二月二十二日

きょう 学校の　じゅぎょうは　三時間でした。

それから　このあいだ　しんぶんに　出ていた　図画の　しょうじょうが　きていました。

それで　ぼくに　しょうじょうを　わたされたので　とてもうれしかった。

一月五日にも　そろばんの六きゅうのしょうじょうが　もらえるので　うれしい。
きょう　図画もかきました。

しょうじょうと　図画を　はさんでおきます。

テレビでいま　わかさまとりものちょうの　おこそずきんが　はじまっています。
ではおやすみなさい。

(母)

図画の賞状はりっぱですね。図画もよく書いてあります。

「ネコがネヅミをおっているのに、だれかがネコをつかまえてホーキをもっている」
かおるがネコのしっぽをつかまえているのですか。

ネヅミはよく似ているけれど、大きいですね。ネコもよくかいています。

今度のお正月には、ナゴでツリができると思います。たのしいね。

仲尾先生が、来年からやめるそうです。

姉ちゃんとよく相だんして勉強のけいかくをたてておくようにしてね。

十二月二十三日

母ちゃん ぼくも 友だちと プレゼントこうかん してもいいですか。もし こうかん してもいいなら 十七の てちようを 三さつかいます。

あきさだくんと みつ高くん、よしはるくんです。

とうちゃん「けんちゃんや ひろしちゃんや こくばくんは かあちゃんがやるからいいはずだよ。」と いいました。

それでいいですか。

それから ぼくは グローブと バットを 父ちゃんとかあちゃんが 下さるそうですね。

あしたは 大そうじで しゅうぎようしきです。

では おやすみなさい。

あした さんぱつをしにいきます。

おばあさんにあづけておいて下さい。

(母)

ねえちゃんは、ガールスカウトに行ったので、一人でさびしかったでしょう。お勉強は、毎日きちんとしていますか。

ちかごろは、手も足も洗ってないようですが、きれいにしてくださいね。

ハもみがなくなっただんじやないかしら。

プレゼントの交かんはよいでしょうね。

さんぱつ代もいれて一ドルはさみます。

クリスマスはみんなでたのしくしましょう。

十二月二十六日

きょうは 朝 先生は きませんでした。

ぼくたちは 十二時まで まちましたが、きません。

ぼくたちは がっかりしました。

でも じぶんたちで べんきょうしました。

きのうは とても たのしいクリスマスでした。

かあちゃん お正月に しんぎおじさんもいくの やっぱり いったほうがいいな、しんぎおじさんがいないと さかなつりがなければ、でも、もしいかなかったら ながに行く時 あさの方でかって ください。

中お先生は びょうきが なおったら また くるそうです。

日記は いつもかいています。

なごで おしばいも します。

はは みがきました。

では、おやすみなさい。

かずえは ぼくが とこをひいてから はをみがく いったので また みがかないでしょう といったので ぼくも いったら けつとばしたりたたいたりしまし

た。

やつぱり かずえは なごに つれていかないほうがいいな。
ガラスは あやまちで コーラを ねえねえのつくえに おこうとすると かすつ
てかけました。ぼくはごめんといつてもききませんでした。

(母)

仲尾先生がいらっしゃらなくて、さびしかったでしょうね。先生の病気がよくなるまでは、教えをよく守って、いまのように自分で勉強してちょうだいね。

もうすぐお正月なのでたのしいですね。

このおたより帖も、後、四、五日すれば、おわりになるのです。来年は、もつときれいに、字も上手になるでしょう。

和江姉さんの事を、かずえ、とよんではいけない事です。

姉さんにいつもはんこうするのが、かおるの一番いけないところです。

口であらそって、また、手をだしたり、けつきよく けんかが大きくなります。

すなおにだまってあやまれば姉ちゃんのつくえにつけたきづの事も許してくれるはずです。

二人とも、母ちゃんのかわいい子供なのに、ナゴへつれて行けなくなりますよ。仲良くしなければ、父ちゃんと母ちゃんも、一しよになってあそべません。

かおるは、自分のたんきをおさえるようがまんのできる男の人になって下さい。口ごたえが多いようです。

気をつけてくれるよいのります。

十二月二十八日

きょう おばあさんとかずえねえさんは はいしやに 行っていたので ぼくは ひろしちゃんや とものりくんと 三人で るすばんしました。

その間 ぼくは グライダーのはねの とりかえをしました。

おばあさんが かえって来たので ぼくは ひろしちゃんや あきさだくんと 三人で グライダーをとばしに 行きました。とものりくんは いきませんでした。

そろばん学校で 先生を 見ると とても元気そうでした。はやく よくなってもらいたいなと思いました。

夜は おばあさんが たいしんざのしばいを テレビでやるそうなので まつています。

お正月には 名ごに 行くそうですね。さかなつりのほかに やがじで たこあげ や 山の方に行って おしばもやりたいと思います。

きょうは あたらしい 先生がきていました。こんどの先生は じゅん子ねえさんにとてもよくにいますね。

スケートは 一つだけ ビヤリングがたりない車があります。
ではおやすみなさい。

(母)

かおるくん、おるすばんありがとう。

母ちゃんは、でかける前に、さがして歩きましたよ。

学校の方へ行つたと、さとし君がいったので、おるす番をしてくれないのかとしんばいしました。

おばあちゃんは、ハをなおして上げないとかわいそうです。

よくなるまでるすばんをたのみます。

ながはま

長浜先生とも、仲良くお勉強してちようだいね。

外であんまりあそびすぎないように。

つくえや本だなのせいとんをして、お正月にはゆつくりしましょう。

ナゴで、つりやオシバ、タコあげなど、やりたい事がたくさんあるのね。

書きぞめの文もよく考えておいて皆でかきくらべしましょう。

では、今日も一日中良い子でいて下さい。

夜は、手も足もハもきれいにみがいてねる事ね。

うがいもしてちようだい。

十二月二十九日

きょう 朝 母ちゃんが 家を出てから 先生と スケートに行くことに しました。^{た。}

^{おさだ}長田のおじさんのみおくりには 行けませんでした。

スケート場では 半時間しかのれませんでしたので、さまに 行ってから また行きました。

かえりに 中山にいちやんや 目がねのにいちやんたちと あしたの 一時や 十二時半ごろ 行くやくそくをしました。行ってもいいですか。

しゅっこう日は 三時からです。

テレビは 今 スリラーげき場をしています。

ではおやすみなさい。

うがいもします。

(母)

スケートに行くのは、よいけど、又、出校日の時間におくれないでね。
今年はもう明日でおわりです。

長浜先生や仲尾先生ともよく休みのしゆくだいななどのおはなしをしておき、ナゴへ行くのもじゅんびするようにしてね。

姉ちゃんに悪口をしてはいけません。

百カンデブなんて、女のひとにいうのは、とてもいけません。

かおるの姉さんです。母ちゃんのかわいい子どもですよ。
きをつけて。

十二月三十日

きょうも ながはま先生は 来ていました。

べんきょうが終って おひるごはんをすませて スケートに 行きました。

それから 家にかえって しゅつこう日に行くと 友だちが もうかえつてもいい
そうだよといったのでかえりました。

ふれんで グライダーも とばしました。

そろばん学校で かけさんの二けたを 八十てんもとりました。

テレビは とても おもしろいのをします。

あしたの夕方に なごにはいくのでしよう。

おへんじくください。

ではおやすみなさい。

【思い出の写真】

その後、その頃の写真が、これまた、母の遺品から出てきたりしたので、それらを眺めていると、また懐かしさがこみ上げてきた。

われわれの家族、一部の親戚連中しか知らないものではあるが、いっしよに綴りこんで記念とすることにした。

- ① 三年五組の記念写真
- ② 当時の勉強部屋と勉強机
- ③ 母と左馬の叔母
- ④ 家庭教師の仲尾先生
- ⑤ 書き初め
- ⑥ 名護におけるつりしんぎさんと
- ⑦ 子供放送クラブ

① 3年5組の記念写真

最上段中央が担任の竹田節子先生。

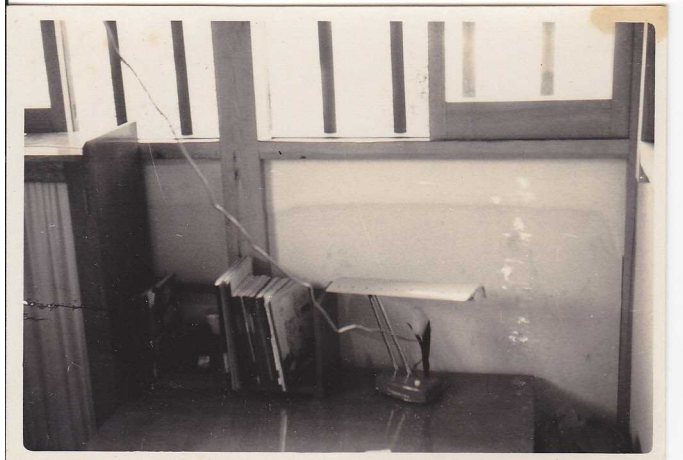
文中では、お産をした先生で登場した
私は、最下段左から5番目の椅子に腰けている。



②当時の勉強部屋と勉強机

仲のよさそうな姉と弟

ガラスをしいた机とスタンド



③母と左馬の叔母



④家庭教師の仲尾先生

⑤ 書き初め



⑥ 名護におけるつり_しんぎさんと



⑦子供放送クラブ



【感想・評価編】

この『おたより帖』に寄せられた感想・評価などは、その都度、収録していきたいと考えています。

①平成二十五年七月四日 徳島市 持山保信氏

①徳島市 持山保信氏

拝啓

沖繩はとうに梅雨明けと聞きましたが、ここ徳島は今が盛りで今後の集中豪雨を経てやっと梅雨明けとなります。毎年繰り返される事とはいえ、ジメジメとうとうしい事この上なしです。そんな中、なんともいえない爽やかな風が吹き抜ける感じの「かおると母ちゃんのお便り帖」を拝読しまして改めて木場さんのお母さん（母ちゃん）と表現させて頂きましたほうがピッタリですが）の偉大さに脱帽です。かねがねお母様のことは木場さんより伺っていましたが、やっぱり尊敬いたします。

小生も母ちゃんには木場さんに似た畏敬の念を禁じえませんが、やはり文章で残っているお母様の記録はたいへん貴重なものと思います。特にお母様のことば遣いの端々に愛情と何とも言えない上品さを感じます。「十セントは、入っていたかしら。おへんじにないのね。」等々まことに印象的でした。女性の色気さを感じます。

参考資料に物価比較の一覧表を同封しておきます。物価を考察する意味でも、今回のお便り帖の復刻は意義あることだと思えます。

定年後、延長勤務をしているとはいえ、週三日制で、些か時間をもてあましており

ますが目下は釣り三昧です。木場さんに刺激をもらいましたので執筆のほうもそろそろ頑張ってみようかなとも考えている今日この頃です。

時節柄、ご自愛下さい。新作の上梓も期待しております。

敬具

平成二十五年七月四日

徳島市末広四丁目七一三二

持山 保信

木場 薫 様

【参考資料】

「かおると母ちゃんおたより帖」にみる沖縄における

1950～1960年代の物価の考察

5／21 グローブのべんしろう代 1 \$ 20 ¢

5／23 学しゅうじてん 83 ¢

6／6 10 ¢ はさんでおきます

6／10 子どもをまもるなんとかいうお金 1 ¢

10／2 学きゅうひ 63 ¢

10／5 あかいはねのきふだい 5

$$\frac{10}{7}$$
$$\frac{10}{9}$$
$$\frac{10}{9}$$
$$\frac{10}{9}$$
10
/
11
$$\frac{10}{12}$$
$$\frac{10}{12}$$
$$\frac{10}{13}$$

10
/
27

10
/
27

10
/
29
$$\frac{11}{4}$$
$$\frac{11}{5}$$
$$\frac{11}{6}$$
$$\frac{11}{7}$$
$$\frac{11}{9}$$

11
／
16

はかいませんでした。ですからあしたかいにいきます。60¢ください。
おばさんから30¢もらってタクシーにのりました。家まで17¢でいけるから
あまった分はふたりでわけなさいといったのでいえでぼくは

11
／
18

7¢かずえねえさんは6¢もらいました。ぼくはちよ金にいました。

いたずらをしておみせのガラスをわりました。それでぼくは子図解を見て見
ると30¢しかありませんべんしうだいは50¢ですからあと20¢たりません
20¢ください。

11
／
20

25¢のかわり50¢をそのままあげます。ガラスのべんしうも、50¢だして、
どんなきもちですか。母ちゃんからだしてもらって、早く25¢かえしてとは、
いわないのがよいでしょうね。

12
／
2

12月のおこずかいはまだもらっていません。45¢のそろばんのげつしやもま
だだしていませんのでください。

12
／
3

ぼくは1¢でさじのあたるくじをひいてみごとあたりました

12
／
8

赤ちゃん用のミルクは70¢ りんご二コで15¢でした

12
／
10

20¢は子どもはくぶつかんの見学だいです。

12
／
12

したじきは10¢のじょうとうをかいました。

I 『1962年当時の主な出来事』

- ・ 東京都が世界初の千万都市となる（2／1）
- ・ 国産初の大型電子計算機NEAC2206発表（2／27）
- ・ 女子学生亡国論（3／10）
- ・ 堀江謙一氏のヨットによる世界初の太平洋単独横断成功（5／12～8／13）
- ・ 手漕ぎボートによる世界初の「利根川下り」成功（8／21～27）
- ・ 戦後初の国産飛行機YS11が完成（8／30）
- ・ 東海村に国産初の原子炉完成（9／12）
- ・ 銚子大橋開通（12／10）

Ⅱ. 『1962年と2012年の物価比較』

品名	1962年	2012年
たばこ(バット20本入り)	30円	200円
たばこ(しんせい20本入り)	40円	240円
たばこ(ピース10本入り)	40円	220円
たばこ(ハイライト20本入り)	70円	410円
ビール大瓶一本(633ml)	125円	320～340円
インスタントラーメン(一袋)	35円	45～60円
横川の「峠の釜飯」	120円	900円
そば・ラーメン	40円	400～500円
握り寿司(10貫＝10皿)	200円	1,000～3,000円
瓶牛乳一本(180～200ml)	15円	150～200円
コーヒー(一杯)	50円	350～500円
床屋	150円	1,000～3,000円
銭湯	20円	390～450円
映画(封切り)	200円	1,800円
国鉄(山手線)初乗り運賃	10円	130円
はがき	5円	50円
封書	10円	80円
新聞(1ヶ月)	390円	3,150円

＊上記資料より 60 年代初頭の物価は、現在 10 倍以上になっていると思われます。1 \$ 360 円時代でしたから 10 ¢ は 360 円～400 円でしょうか？

②那覇市 金城珍諒先生

木場薫さんへ

薫さん「母と子のお便り帳」読みました。時間の経つのも忘れて夢中で読みました。木場家については、私には青春時代の想い出がよぎります。

木場家にはお姉ちゃんの和江さんの担任であり、薫君の放送部での指導者でもあったせいで、ちよくちよく立ち寄ったのを覚えています。

お母さんは、青春時代の悩みの多かった私の話を真剣に聞いてくださり、的確なアドバイスしてくださいました。

薫君の母と子のお便り帳からお母さんの素晴らしさが今更ながら私の心に強く蘇ってくるようです。あのお母さんだから薫君だから毎日のお便り帳が続けられたのでしょう。

お母さんの子を思う深い愛情が由緒にほとばしっています。「まいにち、よくおたよりかいてくれて、ほんとにありがとう。」「今夜もおそくなつてかおるの顔をみられずとてもさびしかった。」「母ちゃんは二人の子供がとても大事なのです。」「ちかごろのかおるちゃんのおこないや、ことば、たいどに、ふと、かなしくなります。」「こんやは、涙がでてなきだしたくなりました。」「あそびたいでしょうが、じぶん

のすべきことをわすれないでね。」「かおるちゃん、しかつたりしてごめんね。いそがしかつたのでだれがわるかつたか、よくわからなかつたのです。」

これらは世のどんな母親でも教育者でもまねの出来ない母親であつたことが惨み出てくる言葉です。仕事でも家庭でも成功している薫君はこの母親があつたればと思います。

二〇一三年七月三十日